

第6章 まとめと結論

平形 和世

1. まとめ

本プロジェクト研究資料第1号及び第2号において、農業・農村の多面的機能・価値のこれまでの指摘にとどまらない新たな機能・価値の抽出とその評価について検討した。

第1号では、第1章において、主観的幸福度アプローチによる都市住民と農村住民の比較分析、第2章では、真の進歩指標（GPI）を用いてマクロの視点から都市農村格差の計測を行った。また、第3章では、社会心理学的アプローチにより、農業社会・漁業社会における社会関係の特徴の解明、第4章では、農業と疾病・健康との関係についての統計分析、第5章では、民間企業の農業・農村の生態系サービス向上に資する活動インセンティブに与える要素の分析を行った。いずれも、経済的評価指標ではない指標を用いての農業・農村の機能や価値の評価であり、研究成果の意義は大きく、また、分析のアプローチについて、これまでにない新しい手法が用いられているのも特徴である。

また、第2号では、第1章において、都市近郊の非農学部大学生の農林業・農山村体験による影響の統計的分析を、第2章においては、CSAと農業・農村の機能・価値との関係について検討を行った。また、第3章では、地域資源の多様な利用による地域産業の展開の解明、第4章では、農村移住への注目と農村移住の変化や現代的課題の分析、第5章では、人口減少の現状と移住の実態・移住促進制度の効果についての考察を行った。これらにより、農業・農村の多面的機能・価値と、その維持・増進に向けた地域的取組との関係や、都市から農村への移住において認識される農業・農村の機能・価値等が部分的ではあるが明確になった点は、本研究の成果である。

2. 今後の課題

第1号の分析では、主観的幸福度、GDPでは考慮されない豊かさを評価するために開発されたGPI、社会心理学におけるつながりの観点、疾病・病気、社会的要因等、様々な側面から、特に、都市と対比した形で農業・農村の多面的機能・価値の評価を行った。しかしながら、評価指標間の関連や、各章で明らかにした様々な農村の多面的機能・価値を結び付けて、統一的に農業・農村の新たな機能・価値の評価手法に発展させることは、今後の課題として重要である。

第2号の分析では、農業・農村の機能・価値の維持・増進に向けた地域的取組や、Iターン等で農業・農村に移住したり、CSA等で交流を持ったりする者の農業・農村に惹かれる価値・機能に注目し分析した。近年、都市住民を含めた国民の間で、農業・農村の価値

が再認識され、都市と農村を人々が行き交うような動きが見られ、こうした動きを一過性の取組で終わらせないためである。農村移住の変遷における価値的転換、農村移住の現状、移住後の地域コミュニティへの浸透、移住を促進する制度の効果等の移住者や移住制度等に関する実態と農村コミュニティへの効果、また大学生の農業・農村体験による効果や CSA 等による都市住民と農業・農村とのつながりの関係性がもたらす都市住民や農村住民にとっての価値を明らかにしたが、農村においては、都市に先駆けて高齢化や人口減少が進行しており、明らかになった農業・農村への効果や、都市住民等への価値をより広げていくために、政策的な観点から既存の制度等に加えて何ができるのか検討していくことも必要であろう。第 1 号の研究成果である新たな機能・価値の評価指標等の活用と併せて、本号の研究成果が農村移住や農村活性化政策の検討の上で、また、農村交流を行う都市住民等にとっても農業・農村の価値を享受する上で生かされることが期待される。